

1 本校の実態

【第4学年】

国語科においては、思考・判断・表現の平均正答率が市平均から約6ポイント低く、「読むこと」の領域では約9ポイント下回っている。

算数科においては、「分数の計算」や「長さ」の単元が、市平均より3～6ポイント低い。

国語科・算数科ともに反復学習を通して、基礎的な学力を身に付ける必要がある。

【第5学年】

国語科においては、「聞くこと」や「情報の扱い」の理解に苦手さが見られる。

算数科においては、「整数の計算」や「活用」の平均正答率が60パーセント未満である。知識を活かし、文章題から適切に立式する力を習得させる必要がある。

【第6学年】

国語科においては、漢字の読みが市平均を下回り、漢字の成り立ちの説明についてもつまずきが見られる。新出漢字を書いて練習するだけでなく、意味や異なる読み方などの理解を深めていく。

算数科においては、最大公約数や割合の求め方の理解が不十分である。さまざまな文章題に慣れさせ、繰り返し問題を解く必要がある。

2 本校の取組方針（「はちおうじっ子ミニマム」の定着に向けた取組を含む）

○「短い時間を活用した教科等指導」を年間10時間（1回15分×30回、奇数学年は火曜日、偶数学年は金曜日）実施する。学習用端末を活用して個別最適な学びを行い、基礎学力の定着を図る。また、担任と家庭との間で学習の理解度や個に応じた支援に関して情報共有を行い、家庭学習の充実を図る。

○「はちおうじっ子ミニマム」の全問正解を達成するために、正しい解き方を理解する機会を確保したり、類似問題に取り組ませたりして、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

3 具体的な取組内容（「はちおうじっ子ミニマム」の確実な定着に向けた取組が分かるように記載）

【校内体制】

「短い時間を活用した教科等指導」は各学級で実施する。専科教員が学級を巡回し、複数体制を組みながら個に応じた指導を行う。

【取り扱う内容】

ドリル型学習コンテンツや「東京ベーシックドリル」を活用して、基礎計算を中心に学力の定着を図る。

第4学年	【短い時間を活用した教科等指導】 基本的には、個に応じて理解が不十分な内容を学習する。 特に、第4学年では「わり算の筆算（÷1桁、2桁）」や「小数のかけ算やわり算」の確実な定着を図る。また、家庭学習が不十分な児童は、家庭と連携し、家庭学習の習慣化を図る。
第5学年	【短い時間を活用した教科等指導】 基本的には、個に応じて理解が不十分な内容を学習する。 特に、第5学年では「小数のかけ算、わり算」や「異分母分数の加減計算」の確実な定着を図る。前学年までの学習内容の理解が不十分な児童は、学び直し等の反復学習を取り入れ、基礎基本を身に付ける。
第6学年	【短い時間を活用した教科等指導】 基本的には、個に応じて理解が不十分な内容を学習する。 特に、第6学年では「分数のかけ算、わり算」の確実な定着を図る。小学校で学ぶ整数や小数、分数の四則計算の反復学習や文章題から正しく立式して解く課題に取り組み、学力の向上を図る。